

中近世西アジアにおける史的テキストの参照・改変・転用とその主体・受容者についての
国際的・学際的研究 (jrp000301)

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

The contents of this report are the intellectual property of their respective authors.

Please do not circulate or cite without authors' permission.

イベント名：2024 年度第 2 回研究会（通算第 2 回目）

日時：2024 年 5 月 29 日（水）15:30～17:00

場所：本郷サテライト 3F セミナールーム、オンライン会議室

公開の範囲：公開（事前登録制）

開催方式：対面、オンライン併用

参加人数：19 名（内訳 [重複含む]：所員 4 名、共同研究員 9 名、外国人 4 名）

使用言語：英語

発表者・題目：Dr. Kaori Otsuya (NIHU/ILCAA), “Jadhb al-Qulūb ilā Diyār al-Maḥbūb by ‘Abd al-Ḥaqq Muḥaddith al-Dihlawī (d. 1052/1642): A Persian Work Based on Al-Samhūdī’s (d. 911/1506) Histories of Medina?”

内容：

5 月 29 日、本郷サテライト 3F セミナールーム（オンライン併用）にて、大津谷馨氏による研究発表 “Jadhb al-Qulūb ilā Diyār al-Maḥbūb by ‘Abd al-Ḥaqq Muḥaddith al-Dihlawī (d. 1052/1642): A Persian Work Based on Al-Samhūdī’s (d. 911/1506) Histories of Medina?” が行われた。30 分間の発表の中で、氏はまず、エジプトの歴史家 al-Samhūdī（1506 年没）が著した複数のメディナ史（アラビア語）について説明した。その上で、南アジア出身でアラビア半島に数年間滞在した経験を持つ al-Dihlawī（1642 年没）の同じ主題の著作 *Jadhb al-Qulūb ilā Diyār al-Maḥbūb*（ペルシア語）と、al-Samhūdī の著作との関係や世界各国における所蔵状況について、現時点で明らかになっている点を整理した。フロアからは、*Jadhb al-Qulūb* の写本が実際にどのような機能や目的を有したのか（聖都案内所として携帯されたのか等）、メッカの *faḍā’il* とはどのような性質のものなのか、*Jadhb al-Qulūb* と al-Samhūdī のメディナ史の違いは、テキストの上では具体的にどのように現れてくるのか、といった点についての質問がでた。このほか、パキスタンからオンラインで参加した、同国におけるペルシア語写本研究の第一人者である Dr. Arif Naushahi の協力により、al-Dihlawī による *Jadhb al-Qulūb* 以外の両聖都に関する著作や、パキスタン国内における *Jadhb al-Qulūb* 写本の所蔵状況について、貴重な情報が提供された。総じて、発表者および参加者双方にとって学びの多い有意義な機会となったと評価できる。

平日の昼間、かつ英語での開催であったにもかかわらず、国内外（ドイツ、イラン、パキスタンを含む）から幅広いキャリアステージの参加者が集まった。特に、博士課程やポストドク研究者の参加が一定数見られたことは、大津谷氏の発表が若手研究者にとって刺激的な内容であったことを示している。今後も本研究プロジェクトでは、英語での開催を継続することで、質の高い国際的な研究成果の発信を目指していく。

（文責：神田 惟）